

学 環境配慮型農業実践塾



町内農業者を対象に環境に配慮した農業の実践塾が開かれました。野菜編(6回)・果樹編(10回)と分けて開かれたこの塾は、野菜編はNPO法人 天草の萌組 代表理事 福田智興氏を果樹編では、株式会社グリーングラス 代表取締役 道法正徳氏を講師に、座学研修、畑での実習が行われました。実際に無農薬・無肥料で作られた野菜の試食も行われ参加者全員から「おいしい」という声が上がりました。

創 新商品開発

本町の特産品であるスイートスプリングを使用した新商品開発が進められ、いくつかの試作品の中からゼリーの新商品開発に絞られました。まだ商品化には至っていませんが、今年度も開発が進められています。容器に関しても一般的なプラスチック容器ではなく、袋式のスタンドバックを使用し、環境に配慮した商品を検討中です。



平成25年度「つなぎFARM」の動き

地 耕作放棄地活用事業

JAあしきた津奈木青壮年部の協力のもと、中尾地区の耕作放棄地再生と考え、玉ねぎの栽培を行いました。雑草が生い茂っていた耕作放棄地の除草作業から行い、粗耕し、施肥、畝立て、マルチ張りを約1か月間かけて行いました。玉ねぎの苗植え付けから収穫までは食育活動も兼ねて津奈木小学校の児童と合同で行われました。



作業後



作業前

売 都市圏への販売ルート拡大



10月には大阪、2月には熊本市上通り『びぶれす広場』で町で獲れた農・海産物の販売を行いました。関西圏の顧客も増やし、年間を通して地元農産物の都市圏PR販売をさらに広めていきます。また、「つなぎブランド」=「安全・安心の農業」をどのように確立していくかが今後の課題となります。

促 販売促進ツール作成

つなぎFARMのブランドロゴを作成し基準を満たした農産物にこのロゴのシールを貼り、町の農産物のブランド化を図っていきます。



ー 津奈木町の食 ー

安全・安心な食と環境を次世代へつなぎ型「安全・安心な食と農」確立事業

環境に配慮した農業「つなぎFARM」始動

本町は水俣病を経験した地域です。人口割合で見ると一番高い発生率となつています。今を生きる、次世代を担う子どもたちには薄れつつある過去。しかし、これらは決して忘れてはいけない過去です。これらを経験したからこそ考えることがあります。津奈木町の豊かな自然を将来に残したい。未来の子供たちへ正しい食をつなごう。そういう思いで環境に配慮した農産物の栽培や食の安全・安心を進める『つなぎFARM』が誕生しました。目標は基盤づくり・地域ブランドの確立

るための基盤づくりに取り組んでいます。また、環境にこだわった産品を地域ブランドとして都市圏へ発信することで、つなぎ型の安全で安心な農林水産物のブランド確立を目指し活動しています。

安全・安心な食と農とは？農薬使用大国日本

日本の気候は雨が多く、高温多湿で、病害虫や雑草が発生しやすい環境となつています。そのため、○安定した収穫量の確保、○虫食いのない見栄えの良い農産物を作る、○労働力を軽減するなどの理由で農薬の使用が必要になつてきます。現在、日本の農薬・肥料の使用量は農薬・肥料取締法で厳しく定められており、残留農薬についても1日の摂取許容量を定めています。しかし、日本は世界の主要先進国の中でも、多くの農薬を使用していると言われていています。農薬は人の神経系で重要な働きをしているアセチルコリンという物質の正常な動きをかく

乱させるものもあります。頭痛、吐き気、めまい、じんましんなどのアレルギー症状、胎児や小児の発達期脳への影響も報告されています。また消費者だけでなく生産者にも多大な影響があり、農薬の空中散布により心機能不全や異常な興奮、衝動性、記憶障害などの症状が発症したという報告もあります。

また肥料を多く使うと、肥料成分の余剰分が地下浸透して地下水の水質汚濁の原因となるほか、海や湖沼などの肥料成分が多くなり赤潮・青潮などの環境問題の原因となる恐れがあります。

安全・安心な食と農、そして、環境を未来につなぐためには、できることから少しずつ進めていくことが大切になると思います。今回の『つなぎFARM』での農薬・肥料などなるべく使わない環境に配慮した農業が、その一歩目となるのではないのでしょうか。

子どもや孫、その先の世代へ安全・安心な食と環境をつなげるためにー。

まだ始まったばかりの「つなぎFARM」。これから、津奈木町で環境と食と農を未来へつないでいく架け橋となるべく活動していきます。